



生涯学習・社会教育の役割 と学び直し

中央教育審議会の生涯学習分科会は8月30日、「**第11期中央教育審議会生涯学習分科会の議論の整理**」を取りまとめ、公表しました。

社会が急速に変化を続ける予測困難の時代において、生涯学習・社会教育が果たしうる役割や今後の振興方策などをまとめたもので、学校の役割などを考える参考にもなるものです。

現状・課題に対応して、生涯学習・社会教育がその役割を果たしていけるよう、以下のような方策を推進する必要があると述べています。

【今後の生涯学習・社会教育の振興方策】

- (1) 公民館等の社会教育施設の機能強化、デジタル社会への対応
- (2) 社会教育主事、社会教育士等の社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- (3) 地域と学校の連携・協働の推進
- (4) リカレント教育の推進
- (5) 多様な障害に対応した生涯学習の推進

「第11期中央教育審議会生涯学習分科会の議論の整理」より

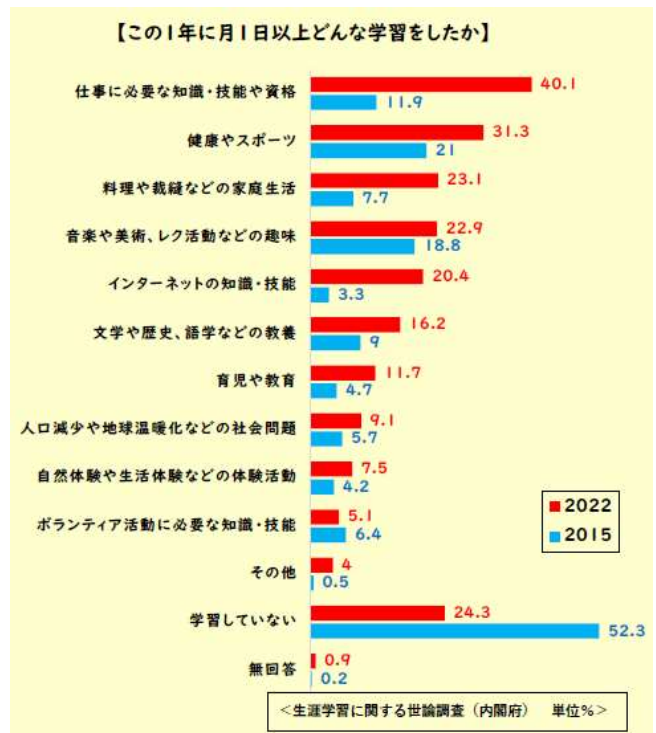
当センターでも生涯学習に関する各種調査を実施するとともに、生涯学習推進上の諸課題に関する研究を推進しています（※詳しくは **HP「まなびネットいわて」研究資料**をご覧ください）。

また、研修事業についても現状や課題に対応した内容を企画し、生涯学習・社会教育関係職員の資質の向上と指導者の養成を図っています。

リカレント教育については、社会教育含め、学校教育、家庭教育などあらゆる場面において必要なタイミングで教育を受けることが求められています。現在、社会はDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に力をいれています。そして、技術革新や新たな変化に対応するために必要とされる知識やスキルを学ぶ「**リスキリング**」

が注目を集めていますが、リスキリングやアップスキリングを含め、社会の変化に対応して年齢を問わず必要なタイミングで学ぶこと、学び直しができる機会や環境の推進が求められています。

ここで、数年おきに実施される内閣府の「**生涯学習に関する世論調査(2022 調査)**」の概要が10月に公表されましたので、2015年調査と類似項目の比較をしてみます。



「学習していない」、「無回答」の合計が2015年調査では52.5%から2022年調査では25.2%となりました。このことから2022年は7割を超える人が何らかの学習に取り組んでいたこととなります。また、「仕事に必要な知識・技能や資格」、「インターネットの知識・技能」の項目が大きく伸びています。

新たな変化に対応する学び、趣味や教養の学びなど、改めて、あらゆる機会、あらゆる場所において学習することができる社会の実現に向けて、当センターでも研修事業、調査研究の充実を図ってまいります。

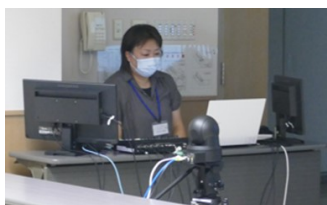
岩手県立生涯学習推進センター事業報告

9/2(金)実施 放課後子ども総合プラン指導者合同研修会②



吉岡 靖史 氏

放課後児童クラブ及び放課後子供教室に携わる関係者282名がYouTubeライブでオンライン受講し、発達に特性のある子どもについて理解を深めました。県教委生涯学習文化財課松川主任社会教育主事の行政説明後、岩手医科大学附属病院児童精神科病棟医長の吉岡靖史先生から「発達障がいへの理解と子どもとの接し方～だれもが過ごしやすい居場所づくりに向けて～」と題してリモート形式で講義を行いました。講義の後には、質疑応答を行い、具体的なケースについて吉岡先生からアドバイスをしてもらいました。



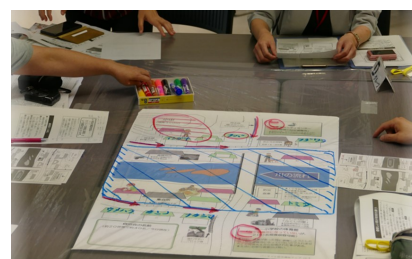
配信の様子

9/16(金)実施 地域安全防災研修会



千川原 公彦 氏

社会教育を担当する市町村職員や市民センター職員、教員を中心に27名が受講し、地域のつながりづくりや命を守る視点からの地域防災について学びました。県教委学校教育室桂主任指導主事の行政説明後、ウェザーハート災害福祉事務所代表千川原公彦氏を講師に迎え、講義演習を行いました。演習では、グループごとに「DIG(ディグ)バーチャルマップ」を使って避難経路について話し合ったり、「災害の時系列カード」を使った課題解決型ワークを行ったりしながら、卓上での防災訓練方法を体験しました。



DIGバーチャルマップの演習

9/13(火)実施 センター公民館・主管課職員等セミナー



佐々木 勉 氏

地区センター・公民館の職員を中心に16名が受講し、研修を通して、共生社会の実現に向けて、地区センターや公民館は何ができるかを考えました。午前中は、県教委生涯学習文化財課阿部社会教育主事の行政説明の後、県文化スポーツ部スポーツ振興課菊池大輔主査スポーツ振興専門員を講師に、ボッチャ体験を行いました。午後は、紫波町教育委員会CSコーディネーターの佐々木勉氏を講師に「障がいの多様性の理解と、関係機関と連携した生涯学習事業の新たな学習プログラムの企画・展開」と題して、講義演習を行い、多様な人たちが参加できる具体的な事業場면을想定したプログラム作成に取り組みました。



ボッチャ体験の様子

9/30(金)実施 子育て・家庭教育相談担当者研修会①



菅原 憲 氏

県や市町村の教育相談に携わる方を中心に30名が受講し、子育て・家庭教育にかかる相談対応に相応しい心構え等について学びました。心理臨床オフィスすがわらの菅原憲氏を講師に迎え、午前は、「相談者が自分らしい人生を歩むための支援」と題して講義を行いました。午後は、「カウンセリング体験を通して『自分らしい支援』の在り方を探してみよう」と題し演習を行いました。演習では、ペアワークを中心に行い、講義で学んだことをフリートーク形式の中で実践しました。



演習の様子

令和5年2月2日(木)～3日(金) 『岩手県生涯学習推進研究発表会』
～人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム2022～

10/11(火)、12(水)、14(金)実施 ICTスキルアップ研修講座③



OBSの実習

当センター高橋啓社会教育主事が務めました。6月実施の「ICTスキルアップ研修講座①」と同様、午前はネット配信の手法についての講義後、ソフトウェア「OBS Studio」の使い方を学びました。午後は、午前に引き続き「OBS Studio」の演習後、当センタースタジオで、実際に受講者の皆さんで配信機材の設置体験を行いました。



配信説明の様子

社会教育や地域づくりを担当する職員や教員を中心に3日間で30名が受講し、オンライン配信において、どのような場合にどのような機材が必要になるかを学びました。講師は、

10/19(水)実施 事業プログラム企画運営研修講座



越村 康英 氏

市町村の地域づくり担当者や公民館、市民センター職員を中心に47名が受講し、地域に根差した事業プログラムの企画の考え方や講座づくりの重要性について理解を深めました。講師に、弘前大学教育学部准教授の越村

康英氏を迎え、講義演習を行いました。演習では、「住民参加の講座ポイント～学習プログラム構成のポイント～」と題し、グループワークを取り入れながら行いました。講義では、「地域に根差し魅力的な講座を企画するために」と題し、前半の演習をふまえ、コロナ禍だからこそ求められる講座の在り方について学びました。



グループワークの様子

地区別人づくり・地域づくり関係職員等研修講座

指導者研修の一環として、教育事務所ごとに研修会を実施しました。テーマに即して講義や演習、意見交流など行いました。6会場で合わせて71名が受講しました。

実施日	地区	会場	テーマ	講師等
7月1日 (金)	中部	るんびにい 美術館	障がい者の 生涯学習	板垣崇志 小林寛
7月20日 (水)	宮古	うみマチ 広場	事業 プログラム	坂田静香
8月19日 (金)	盛岡	紫波町 役場	人財育成	小野寺浩樹
10月12日 (水)	県南	江刺総合 支所	障がい者の 生涯学習	佐藤邦彦 喜古弘光
11月10日 (木)	県北	久慈合庁	ICT活用	高橋啓
11月29日 (火)	沿岸 南部	三陸公民館	家庭教育 支援	伊藤昌子 藤井理華

3年ぶりに開催 センター一般公開

11月3日(木・祝)当センターと県立総合教育センターと合同で、3年ぶりに一般公開を行いました。当センターでは、花巻市内の小学生17名と保護者の方々が参加しました。定員制・事前申込制で行いましたが、各プログラムでは、歓声上がるなど終始熱気に包まれていました。

【公開プログラム】

★「誰でも楽しめる!! パラスポーツ体験」

ボッチャ体験

★「君も今日からYouTuber!!」

ユーチューブ上でのライブ配信体験



Webサイト「まなびネットいわて」には、実施要項やWEB版報告書が掲載されています。

< <https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/youkou/youkou.html> >

久慈市教育委員会文化課から、特色ある事業について寄稿いただきました。

～ 歴史をたどり、郷土を誇り、地域を愛する交流へ ～

久慈市は、長年、久慈城跡をはじめとする歴史・文化事業に取り組み、市の目指す将来像「子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち 久慈」の実現を目指し取り組んでいます。

【久慈城跡 岩手県指定史跡に】

久慈市を代表する史跡である久慈城跡は、戦国時代の山城で、久慈地方の領主であった久慈氏の代々の居城でした。築城された年代は定かではありませんが、文明年間（1469～1487）に久慈備前守信実が久慈氏の居城に定めたとの記録があり、以後100年以上の間、久慈氏はこの城を拠点に久慈地方を統治しました。

天正19年（1591）、南部氏の跡継ぎ争いに端を発した戦「九戸一揆」により、敗北した久慈氏本家は滅亡、久慈城も取り壊しとなりました。その後、城跡はほぼ手つかずのまま残され、城内の平場である郭や濠跡、堀切などが良好な状態で保たれ、中世の山城の構造を今に伝えています。平成3年度に城跡中心部の発掘調査を実施し、建物の柱跡などが発見され、少なくとも3回の建て直しが行われていることが確認されています。

現在、地域住民が主体となって城跡の保存活動を行っており、秋には大川目中学校全校生徒が参加して、久慈城の歴史を学習し、清掃活動を実施しています。このような地域主体の保護活動や城跡が良好な状態で残されていることが高く評価され、令和4年4月8日付で岩手県の史跡に指定されました。この県史跡の指定をきっかけに久慈城跡への関心がますます高まり、史跡見学会や学習会を随時開催し、多くの市民が参加しています。地域の誇りとして久慈城跡を守り伝えていく取り組みは、これからさらに活発になると考えています。



久慈城跡学習会

【歴史文化で結ぶ都市間連携事業】

久慈に伝わるもう一つの戦国時代の歴史が縁となり、現代に新たな交流をもたらしました。久慈出身の戦国武将・南部光信公は、延徳3年（1491）久慈より軍勢を率いて現在の青森県鱒ヶ沢町裡里に入り、勢力を拡大、後に大浦氏を名乗る一族の基礎を築きました。その大浦氏の5代目は為信公であり、後の弘前藩初代藩主となり、弘前城は津軽氏代々の居城となりました。また、弘前藩の黒石領は、江戸時代終わり頃に黒石藩となり、津軽家を支えました。そして、この歴史のルーツをさかのぼると、光信公の祖父は秋田県横手市にある金澤城の城主であったと伝わっています。

この歴史の流れが5つの地域を結び付け、秋田県横手市、久慈市、青森県鱒ヶ沢町、弘前市、黒石市により、令和2年度に「歴史文化で結ぶ交流宣言」が行なわれ、歴史的な繋がりを後世に伝え、交流の輪を広げる事業を、県境を越えて実施しています。

今年は久慈市を会場に、10月9日、各市町長と関係者が久慈市文化会館に集結しました。会場では「歴史文化で結ぶ光信公ゆかりの地」と題し、歴史の流れを解説する展示会や、各自治体の学芸員らがリレー方式で調査結果を報告する歴史発表会を開催し、多くの方が、歴史がつなぐ5つの地域のことを学び、交流を深めるきっかけとなりました。今後もこの歴史の縁を大切に、交流と連携を継続してまいります。



歴史発表会開会



歴史展示会